

# 教育研究業績書

2025年05月07日

所属：食物栄養学科

資格：准教授

氏名：脇本 景子

研究分野	研究内容のキーワード	
栄養教育 食教育	学校における食育 生きる力 地域連携 学校給食 行動変容 こども食堂	
学位	最終学歴	
博士（学校教育学），修士（学術・大阪市立大学大学院），学士（家政学・大阪市立大学）	兵庫教育大学大学院学校教育学研究科教科教育実践学専攻	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. パフォーマンス評価のフィードバック	2018年4月～現在	模擬授業などの演習，課題の発表，レポートの採点等には，ルーブリックを使用し，観点別に評価結果を明示している。学生にフィードバックし，学修の改善に役立てるとともに，成績に関わる評価（採点）の見える化を図る。
2. 学習効果を高める授業の工夫（講義・能動的学習）	2019年4月～現在	①要点に着目しやすい環境設定 授業の冒頭で，学習目標及びキーワードを提示する。また，授業要約となる復習ワークシートを配布する。 ②課題意図の共有化 観点別ルーブリックを提示し，学習者が到達目標を意識して活動し，自己評価しやすい環境を作る。 ③学習知識を活用した実践応用演習 模擬実践のグループワークを取り入れ，習得知識の有意義な使用と創造のトレーニングを行う。 ④授業時間外の学習の促進 授業の冒頭に前時の復習ミニテストを実施する。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 小中学生保護者向け食育オンデマンド教材	2022年4月	学齢期の子を持つ保護者向けに家庭の食育に関するオンデマンド教材を作成し，西宮市高須地区の市立小中学校4校を通じて書面にて動画のURLを知らせ，情報を公開した。
2. 中学校生徒向け食育オンデマンド教材	2020年8月	R2年度文部科学省「早寝早起き朝ごはん」推進校事業の指定校である西宮市立鳴尾中学校の生徒向けに朝食に関する食育教材を作成し提供した。
3. 教員採用試験対策（キャリア支援）	2017年4月～現在	栄養教諭の教員採用試験対策として教材（問題集）を作成，受験準備のアドバイス，面接や模擬授業等の対策指導を行う。
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 文部科学省 平成21年度食育推進交流シンポジウムシンポジスト	2009年6月24日	シンポジウム「学校・家庭・地域の連携による子どもたちに対する食育の推進について」にて栄養教諭の立場として学校・家庭・地域の連携による食育の推進にどのように関わるか提案した。
2. 農林水産省近畿農政局・独立行政法人農畜産業振興機構主催 実践的食育講座 シンポジスト	2007年12月16日	シンポジウム「心にひびく食育！その実践方法とは」にて学校給食に地場産物を活用することの意義と課題について述べた。
3. 食育校内研究 講師	2007年2009年	小学校における食育の実践方法や給食を教材として活用する方法について提案した。（川西市、篠山市）
4. 公益財団法人 こども教育支援財団 乳幼児ケアヘルパー実践講座 講師	2005年2023年	乳幼児対象の業務に従事している保育士や幼稚園教諭を対象に，食事や栄養に問題のある子どもへの対処法や保護者に対する指導法，さらに小学校での食育実践事例をふまえて，乳幼児期の食育や家庭との連携のとり方について講義する。
5. 栄養士、栄養教諭養成課程実習生指導	1993年～2016年	在籍小学校での受け入れ（栄養教諭・栄養士）
<b>4 その他</b>		
1. 令和4年度後期 授業改善奨励賞	2023年3月24日	栄養計算の演習を主内容とする「食事調査法演習」の授業において，必要に応じて説明を確認しながらワークができる遠隔・対面併用型授業を考案した。質問会

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		や成果物共有など、双方向性コミュニケーションの機会を確保するとともに、レポートの採点におけるループリックを示し、評価基準を共有した。
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 栄養教諭一種 2. 管理栄養士		
2 特許等		
1. 2023年度 都市住宅学会賞 業績賞 受賞	2023年12月2日	「武庫川団地におけるURグループ(UR、J S、URコミュニティ)×阪神電気鉄道×武庫川女子大学の産学連携による団地活性化～コミュニティ活動の拠点「赤胴車」～」 独立行政法人都市再生機構西日本支社、武庫川女子大学教職員2名と共に受賞
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 文部科学省 平成19年度 食育推進交流シンポジウム 実践発表	2007年11月8日	生きる力と豊かな心を育てる食教育をめざして～宝塚市立西谷小学校の実践から～
2. 兵庫県教育委員会 平成19年度 阪神南・阪神北地区学校における食育研修会 実践発表	2007年7月3日	生きる力と豊かな心を育てる食教育をめざして～宝塚市立西谷小学校の実践から～
3. 宝塚市教育委員会 平成18年度 宝塚市教育総合センター研究発表大会 実践発表	2007年1月18日	食教育による子どもの育ちをどう読み取るか～評価を生かし家庭と連携する実践の展開～
4 その他		
1. 加東市立滝野中学校食育研修会	2024年7月25日	校内研究として食育にとりくむにあたり、食に関する指導の内容や評価について具体例をもとに解説し、食育推進の進め方について講話を行った。
2. 大阪府立特別支援学校栄養教諭研究会研修会	2024年2月27日	大阪府立特別支援学校栄養教諭を対象に未来を生きる子どもに必要な力とは？をテーマに、今後必要とされる食育についての講演を行った。
3. 尼崎市栄養教諭研修・学校栄養職員研修・食育研修講座	2024年2月16日	尼崎市栄養教諭を対象に未来を生きる子どもに必要な力とは？をテーマに、今後必要とされる食育についての講演を行った。
4. 令和5年度伊丹市食育講演会	2023年11月14日	伊丹市学校教諭、食育担当教諭を対象に未来を生きる子どもに必要な力とは？をテーマに、今後必要とされる食育についての講演を行った。
5. 兵庫県指定研究事業東播磨地区学校食育研究大会	2022年11月11日	県下食育実践関係者を対象に、小野市立旭丘中学校の食育実践の講評と食育に関する講演を行った。
6. 養父市大屋小学校食育研修会	2022年10月14日	児童・保護者向けに食生活の自己管理の必要性について講演を行った。
7. 令和4年度奈良県栄養教諭・学校栄養職員等夏期研修会	2022年7月22日	奈良県の全栄養教諭・学校栄養職員を対象として、生きる力と食育に関する講演を行った。
8. 兵庫県指定研究事業養父市立大屋小学校公開研究会	2021年11月19日	未来を生きる子どもに必要な力と食育に関する講演を行った。
9. 養父市大屋小学校食育研修会	2020年5月12日	食育研究指定校のアドバイザーとして食育実践例をもとに、食育の基本的考え方について講義を行った。
10. 川西市小中学校夏期教職員研修会	2019年8月7日	川西市小中学校夏期教職員研修会の講師として「学校における食育Ver2.0 ～食に関する指導を更新しよう～」をテーマに講義を行った。
11. 加東市学校食育推進委員会	2019年1月28日	「主体的・対話的で深い学びを食育から」をテーマに講話と総括助言を行った。
12. 加東市立東条中学校 校内研究会	2018年11月16日	「食育とESD」をテーマに食育研究校の研究会で講義を行った。
13. 兵庫県教育委員会 栄養教諭実務研修会	2018年11月1日	「魅力ある学校給食のための献立作成の工夫」をテーマとした講義およびグループ討議の指導助言を行った。
14. 加東市学校食育推進委員会	2018年5月30日	市食育推進委員会アドバイザーとして「学校における食育の推進について」をテーマに講話を行った。
15. 加東市学校食育推進委員会	2019年4月～現在	市食育推進委員会アドバイザーとして定例会に出席し、講話、指導助言を行っている。
16. 子ども教育支援財団「大志の森」事業	2018年4月～2019年3月	親子自然体験活動「大志の森」プロジェクト(全4回)

職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
4 その他				
		について、事業評価の立案を行い、教育効果を検証した。		
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 兵庫教育	共	2024年10月	兵庫県立教育研修所	学校における食に関する指導について、子どもの健康実現と生活の質の向上を目的に、長期的な視点でそれを実現する行動、環境、学習目標を備えた教育計画と評価の枠組みが必要であることを解説した。P26-29
2. 季刊栄養教諭	共	2024年7月	全国学校栄養士協議会	児童の機器る力を育む学校・家庭の食育をテーマに、学校教育における食育の意義、生きる力に関わる学校・家庭の食生活上の行動・態度について解説を行った。P16-21
3. 栄養教諭による食に関する指導実践事例集	共	2009年3月	文部科学省	栄養教諭が教職員と協力し、家庭や地域と連携して取り組んだ学校における食育の実践的な事例をまとめた。全166ページ P59-70
4. 学校給食	共	2007年7月	全国学校給食協会	ハイキング給食をテーマに学校給食を能動的に教材として活用する具体例についてまとめた。58(9) P35-38
5. 兵庫教育	共	2007年6月	兵庫県立教育研修所	「命」を実感させる食育カリキュラムの開発 道徳における食育の実践と評価をテーマに食育実践の具体的評価方法についてまとめた。P24-27
6. 学校給食	共	2007年3月	全国学校給食協会	学校給食を教材として活用する「特別献立給食」の提案についてまとめた。58(3) P30-34
2 学位論文				
1. 小学校高学年の給食時の健康関連行動に関する評価尺度の開発	単	2012年3月	兵庫教育大学連合大学院	児童の給食時間における健康行動として給食の完食とブラッシング行動をとりあげ、それぞれの行動について、行動変容段階、自己効力感、意思決定バランスに関する質問紙を作成した。 検討の結果、信頼性と妥当性が確認され、本尺度の使用可能性が示された。また、自己効力感、意思決定バランスと行動変容段階との関連を分析した結果、児童の行動変容を促すためには、これら心理的要因を高めるような教育介入が有効であると考えられた。
3 学術論文				
1. Identification of Soybean Components that Prevent the Entry of Influenza Virus (査読付)	共	2025年4月	Recent Progress in Nutrition. 2025; 5(2).005; doi:10.21926/rpn.2502005.	In this study, we sought to identify the compounds in hydrothermal extracts of soybean that blocked viral entrance and analyzed their mechanisms of action. The analysis of active components revealed that acacetin inhibits the endocytosis process during viral uptake, whereas soyasaponin inhibits virus binding to its receptor.  These findings thus indicate a novel mechanism for the anti-influenza activity of acacetin. (Sakata N, Horio Y, Wakimoto K, Yamaji R, Sumitani H, Isegawa Y.)
2. Relationship between food security and social isolation among residents of large-scale housing complexes in Japan (査読付)	共	2025年3月	Prev Med Res. 2025;2(5):81-85	This study focused on the association between malnutrition, income, and living alone among residents of a large-scale housing complex in Japan to clarify the relationship between household food insecurity and social isolation. We showed that in addition to general financial support, support catering specifically to social isolation is needed to address food insecurity among residents of this housing complex. (Wakimoto K, Hisanari Y-M, Ohtsubo A, Fujii T, Kato J, Ogasawara H, Kudo D, Fukui M, Fujita Y)
3. 外国にルーツを持つ子どもへの学習支援ボランティアに参加する大学生の活動に参加した動機、活動を継続している理由	共	2025年2月	ボランティア学研究 2005;25:103-109	藤田優一, 工藤大祐, 福井美苗, 小笠原史士, 脇本景子, 加藤丈太郎, 藤井達矢, 大坪明 A 団地は外国籍住民の多い総戸数約 7,000 戸の大規模住宅団地である。ここで、2017 年から大学生が、外国にルーツを持つ子どもたちを対象とした学習支援ボランティアの活動を行っている。 本研究の目的は、当該学生たちのボランティア活動に参加した動

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
4. 栄養教諭の教職課程を履修する学生の資質能力に関する学習活動及び職業選択 (査読付)	共	2025年1月	日本食育学会誌 19(1), 21-29	機、継続している理由、今後の活動等に関する意識を明らかにすることである。 9名の学生、卒業生を対象に半構造化インタビューを実施し、質的記述的に分析を行った。ボランティア活動に参加した動機は【社会貢献への参加】、【自身の成長の機会】、【教員からの紹介】であった。学生が活動を継続している理由としては【子どもや保護者への貢献】、【自身の成長の機会】、【子どもとの良好な関係性】、【ボランティアメンバー間の協力】がみられた。 脇本景子, 河合真唯, 久成(横路)三有紀 大学の栄養教諭教職課程において、課程修了に必要な資質能力と職業意識に着目し、学内外の学習活動や志望進路との関連を検証した。教職に関する基礎的理解や、模擬的に指導技術を高める経験や学習を重視する者の資質能力および職業意識は高い傾向がみられた。また、課程修了レベルの資質能力および職業意識と栄養教諭志望との関連を確認した。
5. Relationship between food security and dietary habits and subjective sense of health and subjective sense of well-being among residents of large-scale housing complexes in Japan (査読付)	共	2024年11月	Prev Med Res. 2024;2(3):45-56	This study aimed to determine the relationship between food security and dietary habits and subjective health and subjective well-being among residents of a large-scale housing complex in Japan. In a large-scale housing complex in Japan, inadequate dietary intake was observed in food-insecure households; they ate meals less frequently with their families. Additionally, residents experiencing food insecurity tended to have lower subjective health and subjective well-being, depending on their age. (Wakimoto K, Hisanari Y-M, Ohtsubo A, Fujii T, Kato J, Ogasawara H, Kudo D, Fukui M, Fujita Y)
6. Gender-based Differences in Healthy Eating Practices and Association with Childhood Dietary Behaviors in Young Adults (査読付)	共	2024年7月	日本家政学会誌 75(7), 1-15	久成(横路)三有紀, 吉井美奈子, 設楽 馨, 脇本 景子 若い世代における健康的な食生活の実践と学童期の食習慣との関連について、男女による違いに着目して検討を行った。18~29歳の男女500名を対象とした横断研究であり、質的内容分析、量的統計分析を合わせて行った。若い世代における健康的な食習慣の実践と関連する学童期の食習慣には性差があることが示唆された。
7. 外国にルーツを持つ子どもが受診した際に医師が感じた困難および要望、言語への対応方法 (査読付)	共	2024年6月	外来小児科 27(1), 57-62	藤田優一, 工藤大祐, 福井美苗, 小笠原史士, 脇本景子, 加藤丈太郎, 藤井達矢, 大坪明 外国にルーツを持つ子どもが医療機関を受診した際に医師が感じた困難および要望、言語への対応方法について明らかにすることを目的としてWebアンケートによる調査を行った。言語によるコミュニケーション困難の程度ははさほど深刻ではなかったが、公的支援による通訳の要望がみられた。他に健康保険の期限の問題や、受診の心得において文化・習慣的差異による問題がみられることが明らかになった。
8. Anti-influenza activity of Euglena extract augmented by zinc ionophore quercetin (査読付)	共	2024年5月	Journal of Functional Foods. Volume 116, May 2024, 106176	Euglena extract has anti-influenza virus activity, which can be enhanced using quercetin. We investigated this phenomenon by exposing influenza A virus H1N1, cultured in Madin-Darby canine kidney cells, to a Euglena extract and quercetin solution. Quercetin synergistically enhanced the anti-influenza virus effect of Euglena extract by rapidly inducing cellular zinc production and increasing intracellular zinc content. This medicinal combination may provide new possibilities for preventing and treating influenza. (Yagai H, Horio Y, Wakimoto K, Morimoto R, Oki Y, Nakashima A, Suzuki K, Nakano Y, Yamaji R, Isegawa Y.)
9. 食育による小学4,5,6年生児童の知識・態	共	2023年10月	日本食育学会誌 17(4), 191-198	脇本景子, 横路三有紀, 石井有美子 食育動画教材の一例を用いてその教育効果を検証した。本動画教

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
度・行動の変化と定着（査読付）				
10. 小学校高学年の児童の生きる力と家庭及び学校における食行動・態度との関連（査読付）	共	2022年11月	日本健康教育学会誌 30(4), 283-293	材の教育効果として学習目標の達成は一時的には可能であるが、定着には至らないことが確認された。 脇本景子, 横路三有紀, 大倉健太郎, 岸田恵津 小学校4, 5, 6年生の児童を対象に、横断研究デザインによる自記式質問票調査を行った。児童の生きる力と家庭及び学校における食行動・態度の一部には、男女で異なる関連がみられた。夕食時の家族との会話は男女ともに生きる力に関連する食行動であった。
11. 小学校高学年の児童の生きる力と食生活に関わる親の態度・行動との関係（査読付）	共	2022年2月	日本健康教育学会誌 30(1), 3-13	脇本景子, 横路三有紀, 大倉健太郎, 岸田恵津 小学校4, 5, 6年生の児童とその親を対象に、児童の生きる力と食生活に関わる親の態度・行動に関する質問票調査を行った。児童の生きる力には、子どもの運動不足に対する親の心配、子どもの朝食欠食に対する親の認識が負の要因として関わり、食事時に挨拶を教えることが正の要因として関わっていた。食生活に関わる親の態度・行動の改善により、児童の生きる力の育成を促進できる可能性が示された。
12. Increased Prevalence of Breakfast Skipping in Female College Students in COVID-19（査読付）	共	2021年6月	Asia Pacific J Public Health. 2021;33(4):438-440.	新型コロナウイルス感染症拡大を受け2020年4月から5月に実施された緊急事態宣言下の女子大学生の朝食欠食頻度の変化と健康との関連について調査した。結果、緊急事態宣言期間前に比し期間中の朝食欠食率は有意に上昇した。この変化は昼食や夕食では認められなかった。緊急事態宣言による朝食欠食は、短期間の1kg以上の体重減少に対するリスク因子であった。（Yokoro M, Otaki N, Wakimoto K, Fukuo K）
13. 小学校における学校給食の主食及び牛乳の残食に関わる要因（査読付）	共	2019年11月	日本健康教育学会誌 27(4), 319-329	脇本景子, 岡本希, 西岡伸紀 学校給食の残食に関わる要因と主食及び牛乳の残食量との関連を明らかにし、これら要因を変数とした残食推計モデルを得ることを目的とした。学校給食の主食の残食は、気温、主食の味付け、喫食方法の工夫と関連していた。牛乳の残食は気温と関連していた。米飯、パン、牛乳の残食量について中程度の説明力を有する残食推計モデルが得られた。
14. 小学校高学年の給食関連行動に関する意思決定バランス尺度の開発（査読付）	共	2011年5月	日本健康教育学会誌 19(2), 115-124	脇本景子, 西岡伸紀 児童の給食時間における健康行動として給食の完食とブラッシング行動をとりあげ、意思決定バランスに関する質問紙を作成し、その信頼性と妥当性を検討した。本尺度は高い内的整合性を持っており、検証的因子分析における適合度指標はモデル採択基準の範囲内にあったことから、尺度の信頼性及び妥当性が確認できたと考えられた。
15. 給食の完食とブラッシング行動に関する自己効力感尺度の開発—給食時間における小学校高学年児童の健康行動評価—（査読付）	共	2010年2月	日本健康教育学会誌 18(1), 3-13	脇本景子, 西岡伸紀 児童の給食時間における健康行動として給食の完食とブラッシング行動をとりあげ、自己効力感に関する質問紙を作成し、その信頼性と妥当性を検討した。また行動変容段階との関係について検討した。本尺度は高い内的整合性を持っており、検証的因子分析における適合度指標はモデル採択基準の範囲内にあったことから、尺度の信頼性及び妥当性が確認できたと考えられた。変容段階が後期に移行するにしたがい、自己効力感が高くなる傾向がみられ、理論に合致していることが確認された。
16. 家族とのコミュニケーションの内容や場面が児童の生活充実感に及ぼす影響（査読付）	共	2007年12月	日本食生活学会誌 18(3), 270-276	成瀬祐子, 脇本景子, 富田圭子, 大谷貴美子 小学生を対象にアンケート調査を行い、家族とのコミュニケーションが児童の心にどのように影響を及ぼすのか検討した。パス解析により『孤独感』『家族尊敬』『生活充実感』は全て家族が自分を理解してくれていると思えることと関係し、さらにそれは、『会話のバラエティー』に影響されることが示された。またコミュニケーションの場面として食事中を選んだ児童の『会話のバラエティー』と『生活充実感』の得点が有意に高かったことからコミュニケーションの場面としての食事時間が大切であることが示唆された。
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. シンポジウムⅠ「食べることを「口」か		2012年7月7日	第21回日本健康教育学会学術大会	ライフステージごとに連携した食育と口腔保健の地域実践をテーマに、学童期の食育・歯科保健の実践と課題について述べた。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
「考える-栄養と口腔保健との新たな協働を目指して-」シンポジスト				
<b>2. 学会発表</b>				
1. 金甫外国人市民支援の中期的評価による知見の活用	共	2025年2月22日	第26回 国際ボランティア学会	脇本景子, 藤田優一, 加藤丈太郎 韓国における多文化教育は、過去の「文化を理解しあう」段階から、「社会の一員として統合する」段階へと移行している。 食は誰もが興味をもつ世界共通のツールであることから、我々のアクションリサーチに、これまでどおり食文化理解の要素は残しつつ、外国人住民の子どもたちのアイデンティティを確立しながら社会統合をめざす実践を立案し、その検証を進める予定である。
2. 卒前教育レベルの栄養教諭のコンピテンシーと教職志望	共	2024年7月7日	第12回 日本食育学会学術大会	河合真唯, 脇本景子 大学の栄養教諭教職課程において、課程修了に必要な資質能力と職業意識に着目し、学内外の学習活動や志望進路との関連を検証した。教職に関する基礎的理解や、模擬的に指導技術を高める経験や学習を重視する者の資質能力および職業意識は高い傾向がみられた。
3. Factors Affecting Quality of Life in Children of Foreign Nationality Living in Japan and Japanese Children	共	2024年3月	27th EAFONS 2024 conference (香港)	日本に住む日本人と外国籍の子どもたちのQOLに影響を与える要因について質問紙調査によって明らかにした。調査は7-17歳の子どもをもつ日本人の親300人、外国籍の親100人を対象に行った。分析の結果、日本人の子どもQOLには、宗教上の食事の制限、子どもの持病、母親のソーシャルネットワークが影響していた。外国籍の子どもQOLには、宗教上の食事の制限、経済状況、食糧援助の利用、朝食の摂取状況が影響していた。 共著者: 小笠原史士、脇本景子、福井美苗、工藤大祐、加藤丈太郎、藤井達矢、大坪明、藤田優一
4. 小学校高学年児童における食育視聴覚教材の学習効果	共	2023年6月11日	第11回 日本食育学会学術大会	脇本景子, 横路三有紀 食育動画教材の一例を用いてその教育効果を検証した。本動画教材の教育効果として学習目標の達成は一時的には可能であるが、定着には至らないことが確認された。
5. 外国にルーツを持つ子どもの学習支援ボランティア「ふでばこ」に参加する学生、卒業生を対象としたインタビュー調査(第2報)	共	2023年2月18日	第24回 国際ボランティア学会	外国にルーツを持つ子どもの学習支援ボランティア「ふでばこ」に参加する学生、卒業生を対象としたインタビュー調査を行い、③困難に感じること、④今後「ふでばこ」がどうなればいいのか、⑤団地住民と共に支え合って生活するにはどうすればよいかについて明らかにした。 共著者: 藤田優一、堀江正伸、大坪明、藤井達矢、脇本景子、加藤丈太郎、工藤大祐、小笠原史士、福井美苗
6. 外国にルーツを持つ子どもの学習支援ボランティア「ふでばこ」に参加する学生、卒業生を対象としたインタビュー調査(第1報)	共	2023年2月18日	第24回 国際ボランティア学会	外国にルーツを持つ子どもの学習支援ボランティア「ふでばこ」に参加する学生、卒業生を対象としたインタビュー調査を行い、①活動に参加した同期、②活動を継続している理由について明らかにした。 共著者: 堀江正伸、藤田優一、大坪明、藤井達矢、脇本景子、加藤丈太郎、工藤大祐、小笠原史士、福井美苗
7. 児童の生きる力と食に関する態度・行動との関係	共	2021年9月11日	第29回 日本健康教育学会学術大会	脇本景子, 横路三有紀, 岸田恵津 小学校4,5,6年生の児童を対象に、生きる力と家庭及び学校における食行動・態度に関する横断研究。生きる力の得点を従属変数に、児童の食行動・態度を独立変数として多変量ロジスティック回帰分析を行った。結果、児童の生きる力は、家庭及び学校における食行動・態度の一部と関連がみられた。特に家庭では家族とのコミュニケーションや協働をともなう食行動に、学校では給食を残さないで食べようとする行動に比較的強い関連がみられた。
8. 学校給食の残食量に関わる要因の検討	共	2018年7月7日	第27回 日本健康教育学会学術大会	脇本景子, 西岡伸紀 学校給食の主食と牛乳の残食に関わる要因をとりあげ、残食との関連を明らかにするとともに、これら要因を変数とした残食推計モデルを確立することを目的とした。学校給食の主食の残食は、気温、主食の調理、試食形態と関連していた。牛乳の残食は気温と関連していた。これらの要因を考慮した献立作成により、学校給食の

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
9. 小学校高学年の給食時の健康関連行動における行動変容段階とライフスキルの関連性		2012年11月11日	第59回 日本学校保健学会	残食や、栄養摂取を調整できる可能性が示された。 脇本景子、西岡伸紀 児童の給食時間における健康行動として給食の完食とブラッシング行動をとりあげ、ライフスキルと行動変容段階の関連を検討した。特に維持期において高いライフスキル得点が確認され、獲得した健康行動の継続にはライフスキルが関わっており、健康教育にライフスキル教育を併用することの意義が示唆された。
10. 給食の完食とブラッシング行動に関する意思決定バランス尺度の開発ー給食時間における小学校高学年児童の健康行動評価ー		2010年6月19日	第19回 日本健康教育学会学術大会	脇本景子、西岡伸紀 児童の給食時間における健康行動として給食の完食とブラッシング行動をとりあげ、意思決定バランスに関する質問紙を作成し、その信頼性と妥当性を検討した。本尺度は高い内的整合性を持っており、検証的因子分析における適合度指標はモデル採択基準の範囲内であったことから、尺度の信頼性及び妥当性が確認できたと考えられた。
11. 給食時間の健康行動に関する行動変容段階と意思決定バランスとの関係		2008年11月	第55回 日本学校保健学会	脇本景子、佐藤栄里子、西岡伸紀、鬼頭英明、勝野真吾 小学校高学年の児童を対象として給食時間の健康行動の変容段階と意思決定バランスの関係について検討した。変容段階が後期に移行するにしたがい、恩恵の知覚が増加し、負担の知覚が低下する傾向が確認された。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 持続可能なコミュニティづくりを支える食育プログラムの国際比較研究	共	2025年3月	科研費（課題番号20K02598）報告書 研究代表者 武庫川女子大学 大倉健太郎	武庫川団地におけるアクションリサーチにより、食を基盤とした地域共生モデルの構築について考察した。
2. 教員のコンピテンシー育成に関わる教育活動～資質育成過程の見える化～	単	2024年2月21日	武庫川女子大学学校教育センター研究員集会	大学の教職課程において、栄養教諭のコンピテンシーと志望進路および学内外の学習活動との関連を検証した。栄養教諭のコンピテンシーと教職志望に強い正の関連を確認した。また、コンピテンシーには、栄養教諭の職務に通じる学習活動と正の関連がみられた。教員の人材確保において大学教育におけるコンピテンシー育成の重要性を示した。
3. 武庫川団地におけるFood Insecurityにある住民の集団特性と食事摂取状況	共	2024年2月15日	第8回武庫川女子大学研究成果の社会還元促進に関する発表会	武庫川団地におけるHousehold food insecurityを確認し、その集団特性と食事摂取状況から、生活保障の方策として外国籍や低所得の子育て世代の住民に対する食料支援の必要性を明らかにした。 共著者：脇本景子、藤田優一、大坪明、藤井達矢、加藤丈太郎、横路三有紀、福井美苗、工藤大祐、小笠原史士
4. 学習支援ボランティア「ふでばこ」に参加する学生、卒業生を対象としたインタビュー調査	共	2023年2月15日	第7回武庫川女子大学研究成果の社会還元促進に関する発表会	「ふでばこ」に参加する学生を対象に、活動の同期、活動上の困難、今後の展望などについてインタビュー調査を行った。その回答状況の報告である。 共著者：藤田優一、福井美苗、工藤大祐、小笠原史士、脇本景子、加藤丈太郎、藤井達矢、大坪明
5. 大規模団地で新型コロナ後に再開された「夏祭り」の子どもたちにとっての意義	共	2023年2月15日	第7回武庫川女子大学研究成果の社会還元促進に関する発表会	武庫川団地における夏祭りの、子どもたちにとっての意義あるいは役割を探るために、共同研究者らのゼミでイベントを開催するとともにアンケート調査を行った。その回答状況の報告である。 共著者：大坪明、藤田優一、藤井達矢、脇本景子、加藤丈太郎、工藤大祐、福井美苗、小笠原史士
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 学術研究助成基金助成金（基盤研究C）	共	2023年4月～	令和5年度 科学研究費助成事業	「外国籍住民の多い大規模団地におけるユニバーサル健康支援プログラムの開発と検証」（研究代表者：脇本景子）
2. 日本生命財団研究・地域活動助成事業	共	2021年8月～2023年7月	2021年度児童・少年の健全育成実践的研究助成	「UR団地での多文化共生の多面的プログラム提供と指導者育成」（研究代表者：藤田優一）
3. 学術研究助成基金助成金（基盤研究C）	共	2020年4月～	令和2年度 科学研究費助成事業	「持続可能なコミュニティづくりを支える食育プログラムの国際比較研究」研究分担者（研究代表者：大倉健太郎）

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2021年8月～現在	尼崎市学校給食調理業務委託業者選定委員会委員
2. 2018年4月～現在	加東市学校食育推進委員会アドバイザー